

## 第45回 宇都宮賞 酪農経営の部

受賞者 浦幌町

きく ち とし のり

菊 地 利 憲 氏

昭和25年3月15日生 (62歳)



### 功 績

氏は、昭和41年に後継者として就農以来、個人経営の時代から乳検データ等を活用して個体能力を把握し、徹底した飼養管理と淘汰更新を図り、能力及び体型の両面から遺伝的改良に取り組み、平成3年には町内初の牛群1万kgを達成し、平成4年2月には町内2頭目のエクセレント牛を誕生させた。これらの実績は、町内近隣の若手酪農家の模範となり、氏をはじめとする4戸は、生産性の向上を図り、地域のリーダー的酪農家として経営を築いてきた。

しかし、地区内の後継者不足と農地の余剰、規模拡大による労働過剰等の問題が深刻化し、将来的に個人経営での地域農業維持が困難と考え、共同経営による大規模酪農へ移行し、効率的で生産性の高い経営を目指すことを決意した。

平成13年9月、この4戸と関係機関の担当者と協議を重ね、各地の法人を視察し法人の具体的な形を模索して、平成15年2月に町内初の法人(有)ランドハートの設立に際し、中心的な役割を果たし、代表取締役の重責を担っている。

設立当初、250頭の乳牛導入と大規模な設備投資を行なったにもかかわらず、経営は順調に推移し、平成18年には1頭当たりの乳量が1万kg以上で年間出荷乳量も5,000tを超え、計画目標を1年短縮到達する等、効率的な生産性の向上を実践した。

その後も畜舎増築などの施設整備を行ないつつ、良質な牧草・飼料作物の生産に心がけ、計画的な草地更新はもちろん、土壌分析に基づいた施肥管理が必要と考え、特に、土壌PHの改善が最も重要な改良項目であることから、毎年石灰質資材を土壌分析に基づいて投入し、毎年自家産堆肥を施用することによって土壌の物理性・化学性の改善を図り、収量の増加を図っている。

これら計画的な土壌基盤整備と堆肥の有効利用によって、良質サイレーズ生産に努め、現在の年間出荷乳量は6,000tを超えて、浦幌町全体(37,000t)の16%を占めるなど、先導的な役割を果たしているほか、パーラー排水等の浄化処理や環境に配慮した酪農経営を行なっている。

また、法人設立以前から手がけてきた乳牛改良は、泌乳能力・体型・長命性が重要な形質と考え、特に乳器や肢蹄に注目しつつ交配に努め、法人設立後、すでに4頭のエクセレント牛を輩出している。さらには、後代検定事業にも積極的に参加し、調整交配精液の利用及び後検娘牛の保留等、国内種雄牛づくりに貢献しているなど、地域酪農振興に果たしている役割は極めて大きなものがある。

### 【地域の貢献】

浦幌町酪農振興協議会や浦幌町ホルスタイン改良同志会、浦幌町酪農ヘルパー利用組合の会長や組合長を永年に亘り務め、特に酪農振興協議会会長の任期中には、体細胞の業少など乳質向上に尽力し、浦幌町の良質乳生産に大きく貢献した。

浦幌町農業委員も務め、地域の担い手等への農地利用集積や関係調整等に取り組んだ。また、平成3年からは浦幌町の農業振興対策委員を務め、町の農業総合推進方策の作成に携わるとともに、各種事業実施に当たって助言等を行なっている。

(有)ランドハートの概要

耕地面積344.0㍏ 乳用牛1,085頭  
(経産牛 630頭)

稼動力 17人

経産牛1頭あたり 乳量11,012kg 乳脂率3.98%  
蛋白率3.31%

### 【主な略歴】

- S49. 6 結婚、父より経営移譲
- S59. 11 浦幌町模範牧場運営委員(～H22.12)
- S61. 1 浦幌町ホルスタイン改良同志会 会長  
(～62.12)
- H3. 7 浦幌町農業振興対策委員
- H8. 2 浦幌町酪農振興協議会 会長(～H12.1)
- H13. 4 浦幌町酪農ヘルパー利用組合 組合長  
(～H15.3)
- H14. 4 十勝NO S AI理事(～H20.3)
- H14. 5 浦幌町農業委員(～H20.4)
- H15. 2 (有)ランドハート設立(代表取締役に就任)
- H15. 4 浦幌乳業(株)取締役(～H22.3)
- H15. 11. 7 (有)ランドハート操業開始